修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　前田　寛
〒101　東京都千代田区
神田錦町1-17-1（NK第一ビル）☎03（5259）0631
振替（東京）6－36337

★　われらの信条
われわれは教育を熱愛し　友愛と信義を基盤とする同志的組織のもとに団結する
★　われわれは全修協創設の精神にのっとり　公益法人として　児童生徒の幸福のために挺身する
★　われわれは修学旅行の改善向上に邁進し　我が国の教育振興に寄与する

箱根の山で　世界の美術を鑑賞
（奈良県三郷町立三郷中・左端が2面作文の筆者）

平成6年度

修学旅行費等の国庫補助金

政府原案が決定

総額・単価とも増額

中学校は初めて5万円に

平成六年度の修学旅行、校外活動に対する国庫補助金について、新年度予算の政府原案が決定した。

総額は、修学旅行費二十三億三千七十三万二千円（平成五年度より四千二百三十一万円増）、校外活動費五億四千二百二十二万円（同三千二百七十五万四千円増）で、今国会において国の予算が成立し、正式決定となる。

一人当たりの金額は下表のとおりで、文部省の概算要求額より一部は減額されたが、中学校の修学旅行費は初めて五万円の大台に達することになった。

この補助単価増額について財団法人全国修学旅行研究協会（山本種一理事長）は、毎年文部省、大蔵省に対し陳情を行っているが、昭和三十四年から続いているこの制度が修学旅行の発展に果たす意義は大きく、中学校五万円の要望が今回かなえられたことを特筆したい。

修学旅行費等補助金予算単価

修学旅行費（要保護・準要保護児童生徒対象）

校種	5年度補助単価	6年度補助単価
小学校	17,200円	18,400円
中学校	47,000円	50,000円

校外活動費（準要保護児童生徒対象）

種別	校種	5年度予算単価	6年度予算単価
宿泊を伴わない	小学校	1,190円	1,300円
	中学校	1,700円	1,860円
宿泊を伴う	小学校	2,870円	3,130円
	中学校	4,780円	5,180円

主張

修学旅行と宿舎を考える

八木原　茂雄

修学旅行は、どんな理想を掲げても輸送手段と宿舎が確保されなければ成り立つものではない。

最近、宿舎の問題が話題にのぼる。その中心課題は、東京や京都で五月から六月上旬にかけて旅館の確保が困難であるということである。その原因は種々あると思うが、「一校一旅館」「同一旅館連泊」を望む学校が多いこと、修学旅行の実施が好シーズンに集中していることに起因すると考えられる。

特に、修学旅行を計画するに当たっては、生徒指導（生徒の掌握等）や他の学校とのトラブルを避けたいという理由が「一校一旅館」を主張する主要な根拠となっている。

また、修学旅行を卒業学年で実施する中学校では、その必要経費の積立計画、進路指導、体育・文化的学校行事等の関係で五、六月に実施せざるを得ない。埼玉県等には二年生で実施している中学校もあるが、三年間を見通した一貫性のある学校行事計画を策定する場合、二学年での修学旅行実施には、なかなかなじみにくいものがある。

次に、中学校の生徒数の減少は、旅館経営に様々な波紋を投げかけている。かつては、一つの学校で一つの旅館の収容力を充足していたが、現在は「一校一旅館」の問題もあって、その充足率は六割から七割台になっている。例えば、京都市内の修学旅行旅館の一日の収容定員は約二万名だが、実際の宿泊数は一万二千名程度であるという。

また、「全館貸切」を確保するため宿泊料を増額している学校もあると聞いているが、旅館の経営効率をカバーするまでには至っていないようである。

更に、実施時期の集中からくるシーズンオフ状態の長期化が、旅館の経営を圧迫し、廃業に追い込まれたケースも多い。このような状況下で、他校との「同宿」を学校へ要望することは無理からぬことではあるまいか。

そこで、次のことを提言したい。

一、時代の変化や社会の変化に主体的に対応する旅学旅行を創造する

大人になって旅をするとき、同宿は当たりまえである。修学旅行生だから、一つの旅館を我がもの顔に占拠してよいというわけにはいかない。他の宿泊者へ迷惑を掛けないという心遣いをしっかりと指導する。このことは人間としての在り方を教えることであり、他への思いやりをはぐくむことにもつながる。また、同宿の機会を利用して、他校との交流の場、人間的触れ合いの場として生かす工夫が、学校としてできないものだろうか。

二、連合体輸送に積極的に加盟する

連合体輸送は、実施時期が四月から七月（地域によっては九、十月）にわたり、平準化に寄与しているが、実施日が必ずしも学校の希望と一致するとは限らず、毎年実施時期の制約を受けている。自校のことだけを考えて、都合のよい年だけ加盟するというのではあまりにも手前勝手ではなかろうか。

ある意味で修学旅行も曲がり角にきているといわれるが、教育としての修学旅行の本質は不変である。中学校という時期に修学旅行を通して何を学ばせ、何をどう体験させるのか。修学旅行をとりまく様々な関係者が英知を出し合い、子供たちにとって修学旅行が一層実り多いものにしていきたいものである。

（前関東地区公立中学校修学旅行委員会監事・前水戸市立赤塚中学校長）

昨年よりレベルアップ

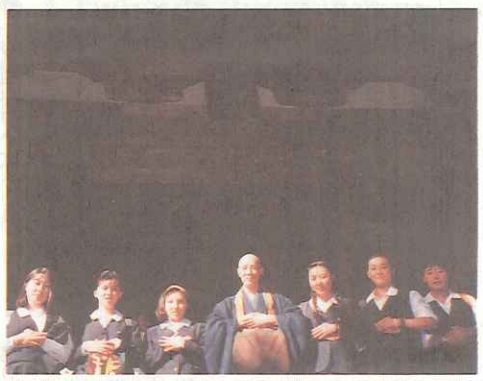
京都のフォトコンテスト　入選決まる

近畿日本ツーリスト協定旅館連盟京都支部主催、（財）全国修学旅行研究協会後援の「第四回フォトコンテスト」最終選考が、二月八日京都ロイヤルホテルで行われた。

「撮っておきの京都」をテーマに、京都のよさを紹介し、観光誘致にも役立てようというもので、写真家横山健藏氏を審査委員長として、主催・後援の団体代表が審査に当たった。

作品は一般の部、修学旅行の部に分け、京都らしさの表現や人の動きなどを基本に選考、特に修学旅行の部では、生徒の生き生きとした表情と京都の風景がよく調和した作品など、昨年に比べてレベルアップが目立ち、関係者を喜ばせた。

応募数は修学旅行十七校四十九点（うち中学校十一校三十八点）、一般五十点。修学旅行の部の入選者は次のとおり。（敬称略）



特選「日々好日」岡本和香（福島・安積女子高校）

特選
「日々好日」　岡本　和香（福島・安積女子高校）

観光協会長賞
「落葉の頃」　綿引　雅敏（茨城・大宮高校）

準特選
「お茶屋の私たち」　岩倉　佳代（福島・福島女子高校）

準特選
「人力車の上でケンケンポーズ」　金子みどり（千葉・佐原女子高校）

佳作
「涼しい町・京都」　小林　理絵（東京・武蔵野女子高校）

佳作
「こっち向いて」　早坂　幸子（福島・福島女子高校）

風紋

近年、マツクイムシの被害で多くの松が枯れている。有岡利幸著「松と日本人」は「日本全体の風景が変わってきた」と述べる。

一方、京都嵯峨の小倉山に植樹されたばかりの松の苗木の葉が一部赤茶色に変わってきたという。平地で育てた苗木を、条件の悪い山頂に植えたためだと専門家は嘆く▼昨年雪害で北山杉が二十七万本も倒壊したが、今年の二月の大雪では京都御苑の松も被害を受けた。樹齢五十年以上の大木が幹折れや根返りを起こし、枝折れは御苑全域に広がった▼雪害を防ぐために、雪国では雪吊りが作られる。木の上から細縄で枝を吊り上げて保護しようとする昔ながらの生活の知恵だ▼巨木の保護や樹勢の回復のために、三年前林野庁に樹木医制度ができた。厳しい試験や研修の結果、京都では六人が指定を受けて、名木・古木の診断と治療に忙しい。西本願寺境内のイチョウも腐食が進み、あと数十年の寿命と診断、現在ウレタン樹脂の注入や土壌回復を行っている▼奈良には巨樹・古木を守りながら身の回りの生活を見直す自然保護団体「グリーンあすなら」が結成された。保存すべき樹木の調査や保存条例制定への運動等を展開していくという▼昨年末、屋久杉の屋久島とブナ林の白神山地が日本初の世界自然遺産に登録された。「木のいのち、木のこころ」を語り続けるのは宮大工の西岡常一さん。文化遺産とともに自然遺産を改めて見直したい。（北）

――修学旅行生の作文――
〈心に残る修学旅行〉
思い出の彫刻の森美術館

奈良県三郷町立三郷中学校
新宅美緒

二日間の自主研修、私たちの行き先は箱根である。バスを一歩踏み出して視界に入ってきたのは、狭い一本のエスカレーター。〝入り口〟と書いてあるからにはここを通らないといけないのだが、乗っているとどこか不思議な場所にいきそうだ。私のイメージとは違って〝本当にここが彫刻の森美術館なのだろうか〟という不安さえも出てきた。

エスカレーターを降りて少し歩くと、いくつかの彫刻が目の前にせまっていた。そばにある店にちょっと立ち入ってから、再びみんなで歩きだした。通路の四方八方に彫刻があり、中には写真で見たことのある彫刻もあって、なんだかうれしくなった。

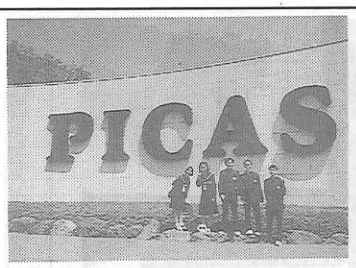
普通の美術館と違って屋外に展示してある。ここ〝彫刻の森美術館〟は視界に飛び込んでくるすべての景色が本当にきれいだった。広大な芝生と緑と、さんさんと輝く太陽に照らされ静かに立っている彫刻の何ともいえない鮮やかな色が、ブレンドされて私のカメラに収められた。帰ったら写真でしかこの景色を思い出されないのか〟と思うと、このまま持って帰りたいような気持ちになった。大きなアートの前で写真を撮ったり、班の人たちとみんなでしゃべりながら歩いたりして時間も忘れるぐらいだった。

ふと芝生に目をやると、高い塔があり中に入れるようだったので、みんなでぞろぞろと入ってみた。狭く丸い塔いっぱいにステンドグラスが張りめぐらされ、中央にはら旋階段があった。うれしくて上がっていったのは良かったが、その階段がまた長く、予想外のしんどさにおそわれた。ようやく長い長い階段を上りきると、とても高くて美術館全体が見渡された。下で見ていた彫刻は、よほど大きかったらしく上から見ていてもはっきりと見えた。また、反対側に〝PICASSO〟と大きく書かれた建物が見えた。

「あれピカソ館ちがう?」「あ、そうやん。」「行ってみよう。」という訳で、一致団結。私たち六人は記念撮影をしてまたあの長い長い階段を下りていった。〝下りだから楽だろう〟と思っていた私はとんだ誤算だった。確かに楽だが、それ以上に怖さが漂っていた。

場所は変わってピカソ館。たくさんの絵が展示されていたが、主に自画像が多かった。ピカソといえば変にゆがんでいて、誰でも描けそうな絵を思いつくが、ここにあったいろんな絵を見ていると、ピカソという人物を少しだけわかったような気がした。それにつぼとかお皿とか、絵以外の物にまで絵を描く心には何か感心するものがあった。

ピカソ館を出て昼食を食べおみやげを買いホテルへと向かったが、帰りの早雲山から桃源台行きのロープウェイから眼下に広がったすばらしい景色は、今でも私の脳裏に焼き付いている程きれいで、何枚も写真を撮ってしまった。帰ってから数日後新聞に、彫刻の森美術館で私たちが写真を撮った大きなアートが掲載されていて、何だかとてもうれしくまた不思議な気持ちになった。それから美術の教科書や資料集にも載っているのを見ると同じような気持ちになり、あの時の美しい景色が私の頭の中にいっぱいに広がっている。



彫刻の森ピカソ館の前で

――修学旅行を考える――
大きな感動の旅
中国への修学旅行

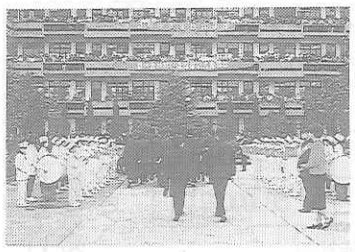
財団法人　日中青少年旅行財団
専務理事　村上司郎

国際化時代を迎え、国際的視野を広げることをテーマに海外への修学旅行が年々増加しています。中でも、高等学校を中心とする中国への修学旅行は、一九八〇年に福岡柳川高校、徳島文理高校が実施して以来私立高校を中心に増え続け、当財団の調査では八八年に五十三校、約一万一千五百人が中国を訪れました。その後、八九年の天安門事件で一時減少したものの年々回復し、九四年平成五年度は公立高校三十四校を含む九十校、約二万一千八百人が中国を訪問し、平成六年度も更に増加することが予想されています。

このように、中国への修学旅行が増加した要因は、四千年の悠久の歴史や貴重な文化遺産に触れ、そして豊かな観光資源を自分の目で見ることにより国際感覚を肌で感じることができるからです。また、もう一つの大きな目的に、学校訪問や交流会があります。言葉も環境も違う両国の青少年が出会い、英語や筆談、時には身振り手振りを交えての交流は、言葉は通じなくても心は通じ合い、生徒たちに大きな感動を与えています。まさに、我が国と二千年の友好の歴史と共通の文化を有する国・中国なればこその心に残る修学旅行なのです。

八七年に文部・運輸両省の認可を受け設立された当財団は、設立当初より青少年の中国への旅行、特に修学旅行などの団体旅行の促進に努力し、財団発足後間もなく中国側に設立された中国接待日本青少年修学旅行委員会（会長・劉毅国家観光局長）と協力し合いながら、民間段階では解決が困難な問題、例えば入国査証の無料化や割引制度をはじめいろいろな問題点を日中双方の政治レベルで解決してきました。また、当財団の要望もあり、中国側は修学旅行で訪れる江蘇省・北京市など五省・二市に地方委員会の設立を認め、観光・運輸・教育関係者などで組織された国家委員会と地方委員会が協力し、受け入れ体制の整備と安全対策の強化に努力しています。その甲斐もあり、安全対策はもちろんのこと、宿泊施設から観光地でのトイレ問題などさまざまな面において改善がなされています。

しかし、現在、公立高校の海外修学旅行を許可している県は二十県三市に留まっており、また、費用・日程などで実施基準に合わず実施に踏み切れない学校も少なくありません。今後もこれらの問題について、早期見直しがなされるよう当財団も関係部門に要望していきたいと考えております。


常州師範学校での熱烈歓迎

平安建都千二百年記念行事の紹介

平安建都千二百年を記念して、京都では今年、多くの行事が予定されているが、財団法人平安建都千二百年記念協会関連のものを、順次紹介する。

高台寺の特別公開とライトアップ

東山の高台寺では、霊屋（おたまや）ほか四棟の保存修理が終了したのを契機に、特別公開とライトアップを実施する。

▽特別公開
期間＝平成6年3月25日～平成7年3月31日
時間＝9時～16時30分
公開文化財＝霊屋・開山堂・観月台・傘亭・時雨亭（以上重文）、庭園（史跡・名勝）
料金＝500円

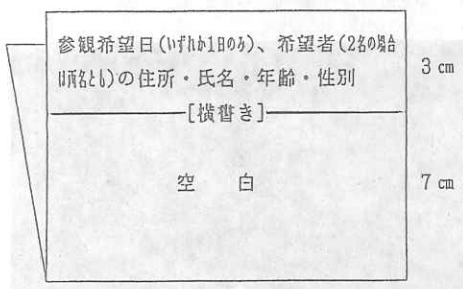
▽ライトアップ
期間＝平成6年3月20日～平成6年5月8日
時間＝18時～22時
対象＝霊屋・開山堂・方丈
料金＝1000円

修学院離宮の特別参観
20歳以上を対象に抽選

宮内庁京都事務所と記念協会の共催により、次の要領で修学院離宮の特別参観を実施する。ただし、修学旅行生は対象とならない。

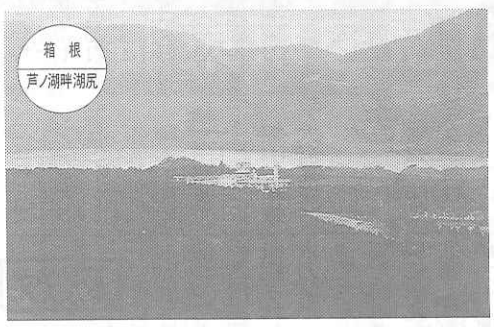
期日＝平成6年6月27日～7月1日（5日間）
参観場所＝修学院離宮（京都市左京区修学院藪添町）上離宮、中離宮、下離宮
定員＝七千五百名（抽選）
申込資格＝満20歳以上の方
参加料＝無料
申込方法＝官製往復はがきで一人一通のみ。ただし一通二名まで連記可
記載事項＝▽往信用（表）あて先〒604京都市中京区烏丸通押小路北西角（財）平安建都千二百年記念協会　特別参観係
（裏）『修学院離宮特別参観申込』参観希望日（一日のみ）、希望者（二名の場合両名とも）の住所・氏名・年齢・性別・電話番号
▽返信用（表）申込代表者の〒・住所・氏名
（裏）はがきの折り目を下にして上部三㌢以内に横書きで参観希望日・希望者全員の住所・氏名・年齢・性別
申込期限＝5月10日
問合せ＝同記念協会☎075・241・1200

（返信用はがき裏の記載例）



（折り目）

⊙申込者が7,500名を超えた場合は抽選。
⊙参観時刻は指定される。変更はできない。
⊙参観許可証を持参しない場合は参観不可。

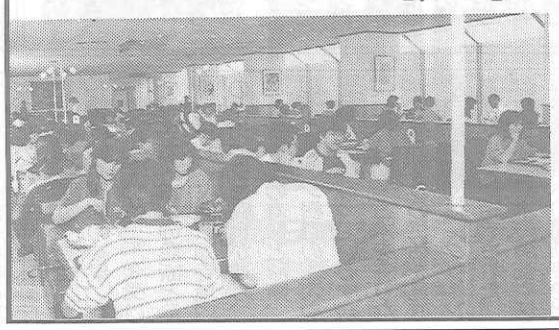


豊かな自然が息づく湖尻高原の中心。
箱根高原ホテルは、深い緑の中に
700名収容の大ホールや、
中小の研修室など、
数々の施設が整っています。
その他体験コースもいろいろ。
心にのこる想い出づくり
感動づくりに素晴らしい環境です。

湖尻高原の大自然に抱かれて
ハートフル・コミュニケーションをお約束します。

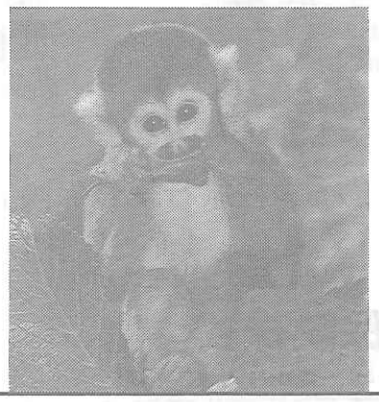
箱根高原ホテル
〒250-05 神奈川県足柄下郡箱根町湖尻
☎(0460)4-8595㈹ FAX.(0460)4-9488

――修学旅行の楽しいお食事――
箱根 彫刻の森美術館内
レストラン コンポート



◇500名様迄、ご利用いただけます。
◇当レストランは、彫刻の森美術館内の施設ですので、入館を必要とします。
〒250-04
神奈川県足柄下郡箱根町
二の平1121
☎0460(2)2221（予約センター）

「動物たちのあったかラ・ン・ド」



●営業受付時間
9:00～17:00（3月16日～11月15日）
9:30～16:00（11月16日～3月15日）
●修学旅行料金（消費税含む）
高校生1,100円　中学生　800円
小学生　700円　ガイドラジオ
バス1台につき1,030円

別府あじむ草原　博物館相当施設
アフリカンサファリ
〒872-07 大分県宇佐郡安心院町大字南畑
☎（0978）48-2331㈹
FAX（0978）48-2330

©SPACE WORLD, INC.
地球に生まれた宇宙。SPACE WORLD

宇・宙・体・験
〈スペースワールドは
21世紀の校外学習環境〉
(株)スペースワールド™
インフォメーションセンター TEL093-672-3600　予約センター 0120-340020
本　社　〒805 北九州市八幡東区枝光900-1